



広島工業大

アスファルトの舗装体験



大学院2年

手島慶祐

広島工業大（広島市佐伯区）で、工学部環境土木工学科の3年生80人を対象とした舗装体験実習があった。建設業界で働く人たちでつくる広島建設青年交流会との交流事業の一環。

5号館と新5号館近くの路上のアスファルトを一部剥がして実習。学生が、広島建設青年交流会メンバーの指導を受けながら、新しいアスファルトを敷きならし、転圧機を使って締め固

建設業界のプロに教わる

めた。

馬越大智さん(21)は「アスファルトを平らにするのは意外と難しく、力が必要だった」と振り返り、右佐林大翔さん(20)は「転圧機の方角転換が難しかったが、指導員に褒められうれしかった」と喜んでいた。

この交流事業は、建設現場の仕事をする学生が体験する目的で、2011年に始まった。ここ2年は新型コロナウイルスの影響でオンラインで開いていたが、3年ぶりの対面実習となった。同じ日には、同交流会メンバーと、学生との意見交換会もあった。



プロに教わりながら学生が舗装を学んだ体験実習